

建設産業常任委員会所管事務調査報告書に係る報告

3 委員会として一致した意見

(1) 「芸術文化とまちづくりについて」

ア 「やおうえるかむコモンズ」の充実と発展

芸術文化活動の有機的ネットワーク「やおうえるかむコモンズ」を充実・発展させていくためには、「コモンズ」に参画する主体を増やし、創造と交流の場を市内全域に広げていく必要がある。その中で、誰もが芸術文化を気軽に発表できる場の提供やマッチング及びその取組の中で、核となるコーディネーターやリーダーとなる人材の発掘や育成に取り組み、行政のみではなく市民を中心に活動の輪が広がるよう環境を整備されたい。

また、「コモンズ」に参画する主体で、特に取組の核となるコーディネーターやリーダーなどの人材が、創造及び交流の場を広げるプロジェクトやイベントに継続して関わることができるような仕組みの構築を求める。

芸術文化活動の有機的ネットワーク「やおうえるかむコモンズ」を充実・発展させていくためのツールとして、「やおうえるかむコモンズポータルサイト」を開設し、サイト上で誰もが芸術文化を気軽に発表できる場の紹介やマッチングができる仕組みを構築してまいります。

また、取り組みの核となるコーディネーターやリーダーを育成するため、アートコーディネーター養成講座を開催してまいります。

なお、養成講座では、基礎編受講生の実践の場として、まちかどライブクリエイションにおいて実際に1会場をコーディネートするなど、プロジェクトやイベントに継続して関わることができる仕組みを構築してまいります。

イ 市民の芸術文化活動の促進

高校合同文化祭は、高校のクラブによる合同文化祭を企画・開催することを通して、互いの創作意

欲を高め、参加者同士の交流を深める狙いがある。本事業の展開として、市内の高校生だけでなく、中学生や大学生、社会人といったところにも「やおうえるかむコモンズ」としての取組の幅を広げられるように、広く市民に伝わり、より戦略的かつ分かりやすい企画やイベントの検討を求める。

高校合同文化祭に参加した高校生からは、他校とのコラボがよい刺激になった、交流することができて良かったといった感想をいただいているものの、一方で、教員の働き方改革との兼ね合いから高校側の負担感について軽減を求める声があるのも事実であります。

今後の展開としては、高校生を中心に、中学生や大学生にも対象を広げ、参加者の公募も視野に企画の検討を進めてまいります。

ウ 「やおうえるかむコモンズ」全体の発表となる「(仮称)やお芸術文化フェスティバル」について、令和10年度の開催に向けて、イベントがより多くの市民が参加できる発表の場となるように取組を進めることが求められる。「やおうえるかむコモンズ」の有機的ネットワークを生かし、多様な主体が参画しながら構想を創り上げていく中で、市民目線の意見もしっかりと取り入れられたい。

「(仮称)やお芸術文化フェスティバル」の開催に向け、まちかどライブクリエイションの継続実施により、さまざまな課題や改善点の把握に努めるとともに、やおうえるかむコモンズ推進会議の多様なメンバーとともにより発展的なイベントとなるよう企画の検討を進めてまいります。

エ 高齢者や障がい者も含め、多様な市民が芸術文化活動を積極的に行うためには、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野との連携を図り、様々な価値を生み出しながら、にぎわいの創出や地域の活性化を図り、芸術文化活動を通じた共生社会の実現を目指すことが重要である。

以上を踏まえ、幅広い関連分野で芸術文化と連携した事業の展開に向けて、関係施設や関係機関との連携・協力を図るだけでなく、庁内横断的な連携事業の検討や情報共有を図ることができる体制

の構築を検討されたい。

芸術文化と他分野の連携を進めるため、新たな市内連携方策について検討を進めるとともに、魅力創造部各課との連携に加え、教育委員会や福祉部局等とも情報共有や連携を進めてまいります。

オ 次世代を担う子どもたちの育成

次世代を担う子どもたちが芸術文化に触れることは、創造性や感性を高め、多様な価値観を身につけるだけでなく、本市の伝統文化を継承し発展させることにもつながり、非常に重要であると考えらる。

以上を踏まえ、学校だけではなく地域の中においても、子どもたちが質の高い魅力的な芸術文化に触れる機会や、伝統文化を学ぶ機会を創出するとともに、思うままに芸術活動に取り組み、発表することができるよう、支援策の充実に努められたい。

次世代を担う子どもたちが伝統文化を学ぶ機会として、子ども河内音頭講座や、高安地域ゆかりの能への理解を深めるためのワークショップを実施しております。また、文化会館の自主公演にて、小学生の無料招待事業を実施しております。

今後も、子どもたちが芸術文化に触れる機会を創出できるよう支援の充実に取り組んでまいります。

カ 八尾ならではの強みを生かした芸術文化の振興

芸術文化基本条例や芸術文化推進基本計画においては、有機的ネットワーク「やおうえるかむ commons」の形成と継続的な拡充によって芸術文化全般の推進を図っていくことが主眼となっているが、その一方で、市民が身近に感じるテーマや分野に焦点を当てることで、芸術文化がさらに地域や市民の生活に浸透する契機になるのではないかと考える。

以上を踏まえ、芸術文化全般の推進を図るだけでなく、ものづくりのまちなど、本市の強みや特性を生かし、市民が親しみやすく、身近に感じる八尾ならではの特定の分野やテーマに焦点を当てた芸

術文化施策の展開や情報発信などについても検討されたい。

芸術文化と他分野との連携の中でも、とりわけものづくりとの連携については、今後、みせるばやおやファクトリズムなどの取り組みとの連携について検討しているところであります。

今後も教育や福祉、観光といった分野と連携することで、より市民が親しみやすく、身近に感じるテーマ設定ができ、地域資源を活用した取り組みなど展開していきたいと考えております。

キ 定量的な目標の設定と進捗状況の評価

市または文化会館で実施予定の事業及び「やおうえるかむコモンズ」で実施が期待できる事業については、定性的な目標だけでなく、定量的な目標も設定して取組を進める必要がある。また、その目標を達成するために、「やおうえるかむコモンズ」が継続的に機能するようサポートをしながら、戦略性を持った取組を展開し、事業の進捗状況の調査や施策の評価・効果検証を実施されたい。

芸術文化推進基本計画に定めるリーディングプロジェクトをはじめ、計画全体の進捗状況を評価するために、ロジックモデルによる評価やアンケートの調査結果等に基づき、その成果を検証・評価していくこととしております。

個別事業の評価については、事業ごとの企画段階において目標集客数等を定め、達成に向けた取組を進めてまいります。

(2)「観光政策について」

ア 本市の観光施策における目指す姿の明確化

団体旅行から個人旅行へのシフト、国際情勢の変動、感染症の流行など、様々に変化する観光のトレンドに対応しながら観光施策を展開していく中、本市の観光施策は第6次総合計画及び実施計画に基づき取組を進めていることが確認できた。

今後は、本市の観光の目指す姿や最終的な目標を明確にし、観光協会と目標の共有化や役割分

担を図りながら取組を進められたい。

観光協会では、身近な体験やまち歩きなどを取り入れた「潜在ツーリズム」を開催し、八尾ならではの体験プランを提供することで、八尾市の魅力発信に努めているところであります。また、本市においても、2025年大阪・関西万博に向けて、観光コンテンツの整備を進めており、観光協会と市の役割分担を図りながら進めてまいります。

イ 地域資源を活用した体験型・着地型の観光商品の造成と充実化

本市は宿泊施設の数に限りがあり、宿泊施設や飲食店など圧倒的な観光資源を有する大阪市を考慮すると、滞在型の観光施策より、日帰りが可能な体験型・着地型の観光に特化する必要があると考えられる。例えば、高安山や歴史資産、八尾空港など、本市独自の地域資源を最大限に活用したプログラムや、本市の強みである「ものづくりのまち」を生かした体験型プログラムなど、多彩で魅力ある体験型・着地型の観光商品の造成、充実化を図れるよう検討されたい。

また、取組を進める際は、市内事業者や関係主体などとの連携を図りながら、魅力創造部全体で事業をさらに進められたい。

本市の地域資源を「いつでも・どこからでも」オンライン上で体験等できるデジタル映像の開発を進め、本市ならではの魅力的なオンライン観光コンテンツとして整備を行い、本市にいなくても、国内外のどこからでも本市の魅力を体験等できる仕組みの整備を市内事業者と連携し進めてまいります。

また、本市独自の魅力ある体験型・着地型の観光についても民間企業等との連携も含め、検討してまいります。

ウ 観光の基盤整備

観光客に安心して過ごしていただくために、受入環境や基盤を整備する必要がある。施設などハード面の整備だけでなく、ICTを活用した多言語対応や Wi-Fi 環境整備といった観光客の目線に立った

観光案内機能の強化など、ソフト面での観光基盤の整備について研究されたい。

財源の確保にも努めながら観光コンテンツの多言語化を進めるとともに、ボランティアガイドの会とも連携するなど、安心して来訪いただける取り組みを検討してまいります。

エ 効果的な情報発信

本市の魅力を多くの人に届け、訪問先として選ばれるようにするため、情報発信の強化に戦略的に取り組む必要がある。

ホームページだけではなく、SNSやマスメディアといった様々な情報発信手段を適切に選択するとともに、興味を引きやすいテーマや観光コンテンツを組み合わせるなど、目標とする顧客に確実に届き、情報に触れた人が本市に訪れたいくなるように、ターゲティングを意識した戦略的な情報発信に努められたい。その際は、市内・市外だけでなく、国外に対しても、インバウンドへの戦略的な誘客を狙った情報発信の手法についても検討されたい。

また、行政や観光協会による情報発信だけでなく、市民や事業者、来訪された観光客の情報発信も促進するなど、市全体としての情報発信力の強化につながる手法も検討されたい。

令和6年度においては、令和5年度で整備した観光コンテンツを、市ホームページ等の従来型の情報発信だけでなく、インフルエンサーなどを活用するなどし、周知を行い、国内外の方にオンライン体験型観光コンテンツの存在をPRし、コンテンツへの参加を誘導できる仕組みを検討してまいります。

オ 圏域を意識した近隣市との連携

近隣自治体などと積極的に連携・協力し、河内圏域でのスケールメリットを生かした様々な施策や取組を進めていくという視点が今後必要になると考えられる。

国内外からの来訪者を効果的に誘客することを目的とした観光商品づくりなど、近隣自治体と連携した取組の手法など、広域間の連携の在り方について研究されたい。

大阪観光局や近隣自治体との連携を進めることで、広域的に地域資源の魅力を情報発信を進めることができるため、今後展開するイベントなどにおいても検討を進めてまいります。

カ 各事業の効果検証手法の検討

「映画のまち・やお」の取組、大阪観光局や事業者等と連携した本市の魅力を発信する取組、2025年の大阪・関西万博に向けた観光コンテンツの整備など、観光施策を推進するための取組や情報発信を進めていることが確認できた。

今後は、実施した事業効果や施策の結果が把握できるよう、効果検証の手法を検討しながら、大阪・関西万博後の観光も見据えた取組も含め、さらなる施策を進められたい。

2025年大阪・関西万博を契機とした観光施策を進めるにあたり、本市への来訪者をはじめとした指標設定について研究してまいります。